

「新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます」

本年も宜しく願いいたします。

昨年は会員の皆様、賛助会員の皆様方には当協会の運営並びに事業活動に対して格段のお力添えを賜りまして心よりお礼申し上げます。

さて昨年四月より消費税が8%に増税されその影響でその後の消費は落込みGDPはマイナス成長となりました。

消費税の10%の値上げは先送りされ、衆議院が解散され総選挙が行われました。

またわれわれ建築設計関連においても建築士法、建築基準法の一部改正が行われ今年6月には施行されます。

建設業界を取り巻く環境も、20年間右肩下がりが続いたが、建設投資は2011年度を底に増加に転じ、今後も被災地の復興需要、インフラ維持更新等で公共工事は堅調に推移すると予想されます。

投資増加が期待されるのは民間建設投資です。建設業の景況感は改善しつつあり、2020年オリンピック・パラリンピックの東京招致が決定され人々が長期的視野を持ちやすくなったこともプラスであります。

しかし、建設業就業者の高齢化が進み、全国的に技能労働者不足が顕在化している。このままでは近い将来、老朽化が進むインフラ維持管理・的確な災害対応といった、この国を守る工事でさえも思う様なスピードで工事が出来ないのではないだろうか。

今後少子高齢化が進むことで、人手不足は各産業に影響を及ぼすと思われる。

建築設計界も同様に若年層の起業が減り会員は高齢化を迎え廃業・退会していく会員のサポートを検討しつつ新規会員の増強をして行かなければならない。

昨年当協会は建築技術サポート委員会を設立、ホームページも開設しました。さらに今年より新規登録者のサポート講習会を企画、会員の支援、連携と結束を高め、協会運営の原点に立ち還り、会員の皆様のお役に立てる事業を今後とも検討を重ね会員の連携・会員増強へと繋がるよう日々努力していきたいと考えております。

年初にあたり私たちは建築士事務所の適切な事業運営と発展並びに建築士の資質の向上、利益の保護を図るべく本年も邁進していきたいと思っております。

最後になりましたが今後ともに協会の会勢拡大と運営並びに会員の皆様のご活躍を心より祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 27 年 1 月

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会
会長 鈴木兼次

